

ROBOMECH2016 in Yokohama開催

田中研新聞

第35号

2016年
7月10日発行

2016年7月10日号

甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長：岡田 航大 (M1)
編集委員：橋本 涉 (B4)

岡田がKOROについて発表

2泊3日で参加したロボメックが無事に終了した。前回のロボメックは当新聞でも昨年記事にしているが、京都で行っていた。今年には横浜にあるパシフィコ横浜と呼ばれる施設での開催となった。パシフィコ横浜はみなとみらいにあり、交通の便はそこまで悪いわけではなく、周りに観光地も多く、飲食店も多いので、遠方から来た私のような人は2泊3日でもそこまで苦にならない場所であった。初日はホテルにつきまでは地獄で、とにかく多い荷物に悩まされた。腕は痛くなるわ、足も痛いわで生きた心地がせず、ホテルについてからは1時間ほど部屋でゆっくりしていた。初日は特に予定もなく、少し早くついたのが、観光をすることにしたが、赤レンガ倉庫の方にはどうせ学会の時にR.Tミドルウェア講習会の時にもいくだろうと思う、中華街の方面に向かった。中華街は三ノ宮にもあるが、横浜の中華街も

活気があって素晴らしかった。あまりお腹が減ってなかった(食欲がなかった)こともあり、ほとんど買い食いしなかったのだが、終わってみると晩御飯も1日はそのあたりで食べればよかったと思った。中華街を後にして「港の見える丘公園」と呼ばれる公園がある名と聞いたので、その公園に行った。文字通り、港の見える丘にある公園だったので、正直なところ、公園なので、観光地といってもそんなに人はいないだろうと思っていたのだが、ドラマやらゲームやら、たびたび舞台になるためか、平日の夕方なのに人が10人くらいいた。公園を後にした後は横濱に就職している学部時代の友人に会い、一緒にご飯を食べて、そのあとお茶をしながら、就職してから状況やこちらの近況報告を行い、お互いにやりあえずは元気でやっていることを確認することができた。もう既に、関西弁が少し抜けて標準語になっていたの

で、少し複雑な気持ちになったが、その後は特に何もせず、次の日のR.Tミドルウェア講習会に備えて、初日はホテルに戻った。2日目はR.Tミドルウェアの講習会に参加した。やる内容もある程度事前に公開されていたのだが、正直やったことがないのが「Raspberry Pi Module」の操作コンポーネントを作るとい部分だけだったので、あまり期待していなかったのだが、これかと思いのほか詳しい説明があり、また今まで「知ったつもり」になっていたR.Tミドルウェアについて再度知ることができた。Fii pコンポーネント一つにしても、OpenCVを使ういいなど色々レクチャーをして貰えた。普段使っていないので、自分が使う場所以外では知ったつもりになっていたので、ちゃんと学びなおすことができ、よかったと思う。Raspberry Pi

ry piを使うセッションは普段KOROでも制御を少しやっているだけあって、その講習会の中では一番に作業を終え、自作のコンポーネントで制御するところまですることができた。正直なところ、田中先生のプロジェクト演習を思い出しながら作業することができたので、非常にいい結果につながったのではないかなと思う。

そしてついに3日目は自身の発表があった。ホテルのチェックアウトを済ませないといけなかったのが、1日目同様「地獄のような荷物」があったので、会場に着くだけでへとへとになっていた。そしてついに3日目は自身の発表があった。ホテルのチェックアウトを済ませないといけなかったのが、1日目同様「地獄のような荷物」があったので、会場に着くだけでへとへとになっていた。



てしま、準備を終えた段階でやり終えた感じになつてしまっていた。しかし、一息つく間もなくセッションが始まった。予定ではパソコンを使った動画はおこなうつもりはなかったのだが(おこなえないと思っていた)当日になっておこなえることになったので、少し頭を使い、研究室のパソコンにリモートをかけ、そこから監視カメラの映像を映し出し、その時間帯のKOROの映像を流すことにした。この機転が案外良かったようで、聞いている人も現在の様子と聞くイメージがしやすいという意見も頂くことができた。実際には厳しい意見もあったのだが、全体的にみると満足いく発表で、ほぼ途切れないに人に聞いてもらうことができ、私が非常に苦労した部分である常駐の大変さなども評価してもらった。

帰りの新幹線の時間をとるのに失敗してしまい(夕方の8時頃に新横浜出発)学会を十分に聞いた後も、3〜4時間ほど時間が空いてしまった。横浜付近は、初日にもうろうろしたので、新横浜付近に移動し、そこで時間をつぶしていたのだが、横浜〜新横浜が少し苦労した。兵庫では、同じホームでまったく行先が違うみたいなケースは珍しいと思うのだが、平気でまったく別の方向に向かう電車などがあつた。具体的には、新横浜にはいかず、川崎方面に向かうという電車だ。電車の色で見分けるとのことなのだが、普段使っていない人からすると、どう考えても無理な話で、結局駅員さんに聞くことで、事なきを得た。

SCIとロボメックと隔週で学会に参加させて頂き、良い経験ができた。まだまだ未熟な面もあり、もつとこうすればよかった、ということとは発表前の準備でも発表中も挙げればキリはないが、この経験を基に今後さらに良い発表ができるように精進しようと思つた。最後になりましたが、忙しい中、隔週の学会にも

関わらず、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。

関係なく、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。

SCIとロボメックと隔週で学会に参加させて頂き、良い経験ができた。まだまだ未熟な面もあり、もつとこうすればよかった、ということとは発表前の準備でも発表中も挙げればキリはないが、この経験を基に今後さらに良い発表ができるように精進しようと思つた。最後になりましたが、忙しい中、隔週の学会にも

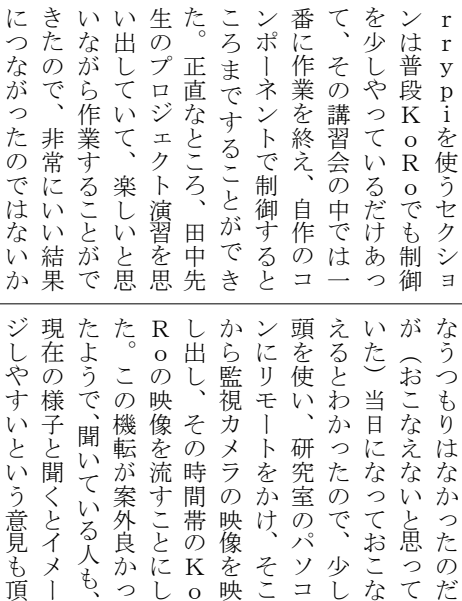
関係なく、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。

関係なく、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。

関係なく、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。

関係なく、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。

関係なく、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。



関係なく、両方とも論文添削や発表練習、実際に見に来て下さった先生ありがとうございました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。ここまで書いて思いました。

私の専門分野②

私は、滋賀大学在籍中の最後に、オーストリアにある、国際応用システム解析研究所（IASA）の研究員を兼任した。在籍期間は1年5か月である。昭和天皇の崩御、美空ひばりが亡くなったのもこの期間中である。そういえば、お隣のハンガリーや東ドイツなどの東ヨーロッパの社会主義体制が崩壊し、人々が大脱走を行ったのもこの頃だったと思う。8月末に帰国後、1月に博士の学位を京都大学で取得し、4月から岡山大学に転出したのだが、この時期、私は結構大変だった。しかし、それよりももっと大変だったのは滋賀大学だったに違いない。1年以上留守ををし、帰ってきて、博士の学位も取り、それなりにその後の教育研究に期待をしてもらったかもしれないがあつたとい

う間に私は滋賀大から消えてしまった。この場を借りて、当時のことをお詫びしたい（といっても、だれも読まないか！）。さて、岡山大学では、工学部情報工学科というところで、最適化を専門とする谷野哲三教授の研究室に、助教として赴任した。当時、多くの国立大学がそうであるように、岡大では、教授・助教・助手という陣営で1つの研究室が構成されていたから、私は谷野研究室に所属することになった。実のところ、それまで研究室を持つこともなく、勝手気ままに研究分野を選び、論文を書いていたから、こうした枠組みの中での研究・教育には大いに面食らった。学生と、論文や洋書を輪読しながら研究テーマを設定し、指導するというスタイルも、自分が

学生の時以来、離れていた（滋賀大学では、経済短期大学部に所属しており、研究指導らしいことはしなかった）。学生指導では、教官一人ずつ学生を分担して受け持ち、自分の読みたい洋書を輪読しながら、そこに書かれている内容を理解し、その中で問題を設定するというスタイルである。私は、工学部で教育する専門分野に事欠くこととなった。研究とは、「他所で同じことをやっておらず、世界で初めて」であることが必須なのは、世界共通の認識であり、岡山大学情報工学科でもそのことは求められた。しかし、何事も、まったく何も基礎がない分野を研究するというのは無理がある。自然に、他人の研究を理解し、それに自分なりの何かを付け加えて論文にす

るということになる。博士論文を書くまでの研究よりは、ずいぶん幅が広がったが、その点については、やはり同様だった。たまに自己流の研究ができたのは、他人の論文や既存のアルゴリズムなどを、間違つて理解したときなどだったと言ってもよい。誤りはそんなに指摘されるものではない。間違いを恐れず、なんでもどんどんやつたほうがいいと思うのは、そういう理由からである。

岡山大学では、遺伝的アルゴリズムに巡り合った。これは、コンピュータ関係の雑誌に載っていた記事を読んだ、「そんなものがあるのか」と思い、興味を持ったのが最初の出会いである。遺伝的アルゴリズムに私が染まったのは、流行りの比較的早い時期だったため、著書も執筆でき、一時期、遺伝的アルゴリズムの研究者として、多少名が知られることになった。ニューラルネットワークにも興味を持ったのは、何かの必然

性があったのだろうか。しかし、ニューロは教師あり学習、教師なし学習など、多数の種類があり、その内容を理解することはかなり困難を極めた。それでも、ニューロも一応の自信ももち、著書も出版した。ここまでくると、フアジイも含めて、いわゆる、ソフトコンピュータという統一した体系的なものを作ってきた人なので、私と専門が合うはずもない。それまで使ってきたmathproというドメイン名も、gigaに変更され、将来に失望した私は、転出することを考えるようになった。ちょうどそのころ、甲南大学で求人があった。薬にもすがすがしい気持ちで応募し、幸運にも採用された。添付の画像は、93年にシドニーでの自動制御の学会で、谷野先生ご夫婦、本学部におられた中山先生と一緒に写った写真である。以下、次号に続く（田中雅博）

定があるので、そこで普通酒以外も飲めると今からわくわくしています。少し値段は張るかもしれないと思いますが、試飲してより美味しく私の口に合うものを探し、お土産に買って帰って来たいと思っています。（橋本渉）

今年も夏休み前の時期となった。夏といえば旅行を考えている方も多いかと思う。夏の定番という沖縄であったり、近場で済ませようと思っている人は城崎や白浜、ゼミ旅行でも行つたし、私は今年も行く予定だが、三重県なども定番のスポットだろう。夏休みの旅行はどうしても高くなりがちで、大学生は大体9月に計画している人も多いはずだ。実際は、8月の末もそれなりに安いのだが（小中学生は宿題に忙しいのだろうか？）9月の予定はどこともうお得なものや注目が高いものから埋まっていて、そんな中、今年の夏注目してほしいのは九州の大震災復興の「ふっこう割」というサービスで、今年も九州への宿泊がとんでもお得である。九州というところ、昨年度のゼミ旅行で大分に行った。私自身は、行った事がない都道府県の中に熊本と鹿児島が残っているのだ。今年はこの「ふっこう割」を利用して友人らと熊本に行こうかと考えている。大体普段だと1泊2万程度の旅館に3人〜4人一部屋だと、1人あたり6000円程度で泊まれるのだ。あまりの安さに素泊まりを疑ったのだが、ちゃんと夕飯がついていて、しかも少し贅沢しようと考えて1泊に1万ほど出すと、伊勢海老のお造りや鍋のコースに変更することもできる。1泊1万円というのは、普段旅行しない人にはピンとこないかもしれないが、さして高いわけではない。むしろ、夏休みの時期だと1泊1万円程度だと素泊まりの可能性も高い。交通手段も旅行会社で手配してもらおうと大体JRだつ

たり飛行機（格安航空ではない）なのだが、せっかくなので今回も「さんふらわあ」を使用しようと考えている。往復でも4人部屋の個室で1人1万2千円程度で、そこにレンタカー、ガソリン代など含めても、1人あたり2万5千円くらいで、とても贅沢な旅ができる。そこにお土産代やその他昼ごはんなどを考えても予算4万で美味しいものをいっぱい食べることが可能だ。

2日で行って帰りたいという人は、旅行会社から提供されている飛行機利用プランや、新幹線利用プランを用いても良いと思う。それも普段だったから6万程度かかるのだが、「ふっこう割」利用プランだと大体3〜4万程度で行くことができる。時間がないという場合は、時間も検討していただければ幸いです。お盆の時期や、8月序盤でも、そのくらいの価格帯の旅館なども出ていたりするので、よく調べてみることをお勧めする。個人的には近畿日本ツーリストなどで検索すると、非常にわかりやすく、またお得なプランが提供されている。旅行慣れはしているが、ここまでお得に感じるような事は珍しいので、今年の夏は「ふっこう割」「さんふらわあ」「レンタカー」を用いて、ちよつと贅沢な、普段とは違う旅を皆様も計画してみたいかと思う。ただし、ふっこう割は続々と予約締切が終わっているの、この記事が掲載される7月10日前後には、もしかすると、もうすでに予約がいっぱいになっていくかもしれないことを注意してほしい。（岡田航大）

今年の夏は九州がお得？

編集後記

6月の学会が終わると、それぞれの講義も佳境に入り、内容的にも難しい部分になって、正直講義の準備をするだけで1週間が終わってしまったというため、まったく研究が進まず焦る毎日を送っています。

夏休みには集中講義もありませんし、用事がない日はほぼ毎日学校に来ていると思います。もしかすると、普段はめつたな事でもない限りは来ない日曜日に来る可能性も多にありますが（研究十涼みに）

記事にもしていますが、今年の夏は「熊本」か「鹿児島」もしくはその両方を制覇することができそうなので、行った事がない都道府県の数も5を切る事が確定しています。実際、こういう友達同士で旅行に行く時は、大体プランを組み立てて、旅のおりのようなものを作るのですが（とはいってもバスや電車の時間、主要施設の営業時間や、ネットクーポンなどを印刷したものの程度ですが）九州はどうしてもレンタカー主体となるため、時間が読みづらいです。そして、そんなことを毎回していると友人らからは、もういつそ旅行会社に就職したらいいのにと言われる始末です。プランニングしているときに一番楽しいので、個人的にも向いているのかもしれないとは思いますが、なかなかあつたという気持ちになります。ゼミでも編集委員になつていなければ、恐らく旅行係になつていただ。そんなことを言っていると旅行のプランお願いねと言われそうなので、この場を借りてお断りしておきます。編集委員だけのおな一杯です（笑）。（岡田航大）

日本酒再発見

第3回 立山

今回は富山県の地酒、「立山」を紹介します。味は淡麗辛口で日本酒の適度な香りと辛さに加え、ほんのり甘味も感じられ私の好きなタイプの日本酒です。あまり日本酒に慣れてなくても飲みやすく美味しいと思います。富山県は米どころ新潟県の隣県で美味しいお米から作られた日本酒が沢山ありますが、立山は富山県の日本酒といえどという問いに対して3本の指に入るほどの地酒です。ただ、あまり富山県の日本酒は有名なものがないのか富山県に住んでいる友人に話したと

ころ知っていることに驚かれました（笑）。この日本酒の一番オススメしたいポイントとは、比較的安く手に入りやすいところと、この日本酒はセブイレブんで購入できます。私がこの日本酒を初めて知ったのもセブイレブんでした。しかも値段は普通酒の4合瓶で1000円ほどと、かなり手出ししやすい値段で、友人と一晩飲むためにあまり期待せず買ったものだったのですが、実際飲んで見るとこれがすごく美味しく飲みやすかつたためすぐになくな

つてしまいました。安くて美味しいとコストパフォーマンスが良いので、その友人と飲んだ後も家族と友人だり、他のお酒好きな友人の誕生日にプレゼントしたりと個人的にも良く買っています。実はこの夏に富山県と石川県に旅行に行く予定があるので、そこで普通酒以外も飲めると今からわくわくしています。少し値段は張るかもしれないと思いますが、試飲してより美味しく私の口に合うものを探し、お土産に買って帰って来たいと思っています。（橋本渉）

谷野教授が阪大に転出した後、立山製作所を退職した人が着任した。プロセッサを作ってきた人なので、私と専門が合うはずもない。それまで使ってきたmathproというドメイン名も、gigaに変更され、将来に失望した私は、転出することを考えるようになった。ちょうどそのころ、甲南大学で求人があった。薬にもすがすがしい気持ちで応募し、幸運にも採用された。添付の画像は、93年にシドニーでの自動制御の学会で、谷野先生ご夫婦、本学部におられた中山先生と一緒に写った写真である。以下、次号に続く（田中雅博）

今年も夏休み前の時期となった。夏といえば旅行を考えている方も多いかと思う。夏の定番という沖縄であったり、近場で済ませようと思っている人は城崎や白浜、ゼミ旅行でも行つたし、私は今年も行く予定だが、三重県なども定番のスポットだろう。夏休みの旅行はどうしても高くなりがちで、大学生は大体9月に計画している人も多いはずだ。実際は、8月の末もそれなりに安いのだが（小中学生は宿題に忙しいのだろうか？）9月の予定はどこともうお得なものや注目が高いものから埋まっていて、そんな中、今年の夏注目してほしいのは九州の大震災復興の「ふっこう割」というサービスで、今年も九州への宿泊がとんでもお得である。九州というところ、昨年度のゼミ旅行で大分に行った。私自身は、行った事がない都道府県の中に熊本と鹿児島が残っているのだ。今年はこの「ふっこう割」を利用して友人らと熊本に行こうかと考えている。大体普段だと1泊2万程度の旅館に3人〜4人一部屋だと、1人あたり6000円程度で泊まれるのだ。あまりの安さに素泊まりを疑ったのだが、ちゃんと夕飯がついていて、しかも少し贅沢しようと考えて1泊に1万ほど出すと、伊勢海老のお造りや鍋のコースに変更することもできる。1泊1万円というのは、普段旅行しない人にはピンとこないかもしれないが、さして高いわけではない。むしろ、夏休みの時期だと1泊1万円程度だと素泊まりの可能性も高い。交通手段も旅行会社で手配してもらおうと大体JRだつ

たり飛行機（格安航空ではない）なのだが、せっかくなので今回も「さんふらわあ」を使用しようと考えている。往復でも4人部屋の個室で1人1万2千円程度で、そこにレンタカー、ガソリン代など含めても、1人あたり2万5千円くらいで、とても贅沢な旅ができる。そこにお土産代やその他昼ごはんなどを考えても予算4万で美味しいものをいっぱい食べることが可能だ。

2日で行って帰りたいという人は、旅行会社から提供されている飛行機利用プランや、新幹線利用プランを用いても良いと思う。それも普段だったから6万程度かかるのだが、「ふっこう割」利用プランだと大体3〜4万程度で行くことができる。時間がないという場合は、時間も検討していただければ幸いです。お盆の時期や、8月序盤でも、そのくらいの価格帯の旅館なども出ていたりするので、よく調べてみることをお勧めする。個人的には近畿日本ツーリストなどで検索すると、非常にわかりやすく、またお得なプランが提供されている。旅行慣れはしているが、ここまでお得に感じるような事は珍しいので、今年の夏は「ふっこう割」「さんふらわあ」「レンタカー」を用いて、ちよつと贅沢な、普段とは違う旅を皆様も計画してみたいかと思う。ただし、ふっこう割は続々と予約締切が終わっているの、この記事が掲載される7月10日前後には、もしかすると、もうすでに予約がいっぱいになっていくかもしれないことを注意してほしい。（岡田航大）

